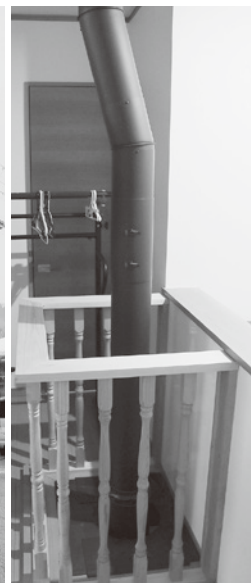


第39回金山町住宅建築コンクール  
矢口初男邸(施工…建築柴田)が佳作



上：矢口邸の外観。金山住宅としての景観もさることながら、既存の車庫と母屋を繋げ、暮らしやすい工夫がなされている。

右：暖房器具には薪ストーブを採用。これひとつで柔らかなあたたかさが家の大部分に行き渡る。

右上：薪ストーブの煙突はそのまま2階の暖房に。3世代同居の矢口邸はお孫さんもまだ小さいため、防護柵もしっかり備え付けている。



金山住宅を建築したいという思い

今年度で第39回目を迎える金山町住宅建築コンクール審査会は、専門家を含めさまざまな角度から、その年に建築された住宅を審査・評価することで、町内建築業者の技術向上を図ろうというのが本来の目的。加えて近年は、住宅建築が多様化する中で、金山住宅を建築した方の思いに寄り添い、改めて金山杉を活かした在来工法の住宅の良さを見直す絶好の機会ともなっています。

今年度、金山町における新築住宅は矢口初男邸(下向)の1棟。建築柴田(柴田栄代表・十日町)が施工した金山住宅です。12月13日、12名の審査委員による現地視察のうえ、今年度の審査会が開催されました。審査は多くの観点よりなされます。「伝統技術の保持ができているか」や「街並み・周囲と調和しているか」などの技術面はもちろん、「生活を考慮しているか」といった実際に住まう人の思いを叶えられているかどうかも大切な審査基準となります。

矢口邸は木材をふんだんに使った暖かみのある内装に加え、暖房器具に採用した薪ストーブが高評価。これひとつで1階から2階まで家中を優しく暖めます。「家を建てようと思った時に、住宅メーカーで建てる方が手軽。そんな中、金山住宅を建てよう」と決断した施主の思いも大きく評価するべきだ」と審査委員長の片山和俊先生(東京藝術大学名誉教授)は新たな観点で評価。その評価に多くの審査委員が賛同し、「佳作」入賞の決め手となりました。

審査の際、大勢でお邪魔したにも関わらず、笑顔で迎えてくれた矢口さんご家族が印象的でした。施主の思いを細部までくみ取って完成した住宅。3世代が楽しく笑って生活できる、矢口邸はそんな「住まう人にとってナンバーワン」を実現した金山住宅に違いありません。